

特定非営利活動法人日本小児循環器学会  
**2014年度第1回理事会 議事録**

日時：2014年9月27日（土） 7：00～9：00

場所：仙台国際ホテル 6F 萩の間

【理事組織】（敬称略・五十音順）

理事長：安河内聡

副理事長：角秀秋

理事：市田落子、小川俊一、小山耕太郎、賀藤均、鎌田政博、坂本喜三郎、  
佐地勉、佐野俊二、白石公、住友直方、土井庄三郎、富田英、中西敏雄、  
丹羽公一郎、檜垣高史(欠席)、三谷義英、山岸敬幸、山岸正明

監事：新垣義夫、八木原俊克

幹事：鮎澤衛(欠席)、深澤隆治

【議題】

1. 開会：安河内理事長

出席者が確認され、理事会成立の確認が確認された。

議事録署名人選任：市田落子先生と小川俊一先生が選任された。

2. 前回議事録確認（2014年7月2日開催理事会）（資料1...P1）

特に議論なく承認された。

3. 報告事項

1) 除名対象者の報告と対応について：総務担当 佐地理事（資料2...P15）

3年以上未納の会員がリストアップされた。これらの会員は1年以内に復帰の申し出があり、滞納分の会費の納入があれば、復権を認め、会員歴の通算継続も認めることになった。ただし、専門医申請、評議員申請の場合はそれぞれ連続会員歴が必要なため一旦退会となった場合は、改めて新規の会員再開となる。

2) 第5期試験問題消失と学会事務事業からの撤退について

：株式会社メディカルトリビューン（資料3...P17）

試験問題消失について

メディカルトリビューン（MT）社の小林氏から問題消失に関する概要と経緯、および今後の対策について顛末書の説明がなされた。また顛末書に基づいた業務対応について報告さ

れた。

MT 社から学会に対して検討要望課題が3つ挙げられた(資料集 p.22)。安河内理事長から③試験問題の返却は既に富田試験委員長の了解があったこと、②試験委員会への事務局担当者の出席は富田委員長の了解のもとに許可すること、①の試験問題専用 PC の購入に関しては必要ないと結論され、試験問題を毎回媒体に保存することとなったことが説明された。また試験問題に関する最終的な交渉の決着は桑原先生に確認してもらってから最終的な締結書を結ぶ予定であることが説明された。

#### MT 社の学会事務事業からの撤退について

平成26年9月12日に執り行われた MT 社社長二又氏との面談の議事録が提示された。p23-26 は安河内理事長の議事録、p27-30 は MT 社の議事録である。二又氏からは試験問題消失の件、第50回学術集會年會費計算ミスの件、一昨年の会計経理ミスの件について謝罪があった。また2015年12月31日をもって MT 社の学会事務事業撤退の正式な申し込みが文書(資料3、p31)をもってなされた。なお、専門医制度業務に関しては2015年4月30日をもって終了となっているが、来年の試験終了までは業務を継続してもらうことが MT 社と確認された。以上、安河内理事長から報告された。

#### 3) 第5期専門医試験進捗状況について：富田委員長(資料4...P32)

富田委員長から本年度専門医試験は10月26日に医科歯科大学で実施されることが報告された。毎年申請書類の不備が4割程度あり、一度は訂正させているが、手間・郵送費などの問題もあり、暫定医制度終了をもって書類不備を失格とすることも検討していると報告された。

#### 4) 宮田財団との打ち合わせ結果について：安河内理事長(資料5...P33)

小循環側から安河内理事長、白石理事、事務局伏見氏、宮田財団側から宮田理事長、衣目公認会計士、事務局尾崎氏の出席があった。協議の結果、以下の合意があったことが報告された。①COIを確認する。②100万円の寄付を受け取り、学会の奨励研究の項目で表彰を行う。③選考は学会が行い、表彰名は「Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会奨励研究賞」とする。④表彰は学術集會中總會以外の別室で宮田財団理事長と学会代表とで行い、總會時に表彰者を報告する。⑤その他 HP や News Letter にて表彰の報告を行う。⑥教育セミナー advanced course への協賛金(100万円)は宮田財団の応募期間内に日本小児循環器学会から必要な書類手続きで応募すれば、優先的に配分する予定ということが確認された。

以上の報告について、

- COI 上問題がなければ寄付金を受けることが承認された。
- 表彰名も Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞」で承認された。

- 教育セミナーadvanced course に対する宮田財団の寄付も応募手続きを行って優先的に配分していただくことが承認された。

以下のコメント、質問があった

- 他学会（日循・心臓病）ではこのような寄付は一切問題ない。（佐野理事）
- 学術集会への寄付か、学会本体への寄付か。（富田理事）学会本体への寄付である（安河内理事長）
- 寄付は小分けにして多くの人を表彰してよいか。（山岸敬幸理事）80%以上を賞として使わなければいけないが、何人を表彰するかは学会の自由である。（安河内理事長）
- 10月半ばまでに契約書をまとめて持ち回り理事会で承認後、宮田財団と締結作業に入る。宮田財団の理事会が12月7日にあるためそれまでに契約書を締結する予定（安河内理事長）

5) COI 自己申告書提出状況と今後の予定について：三谷委員長（資料 6...P36）

三谷委員長より、COI 自己申告提出について、学会 HP の対応について、今後のスケジュールについて報告があった。来年の学術集会では抄録提出時に COI を求めること、COI の教育講演が予定されていることの報告があった。

6) 多領域専門職委員会報告：安河内理事長（資料 7...P38）

安河内理事長から資料が提示された。

7) 教育委員会報告：鎌田委員長（資料 8...P40）

鎌田委員長から報告があった。11月8日に開催予定の Advanced Course は、動画配信をうたっているため、例年より参加申込者が少ないこと。動画配信は、他社と比較し圧倒的廉価であったためエムプラス社に決定したこと。また、来年の学術集会での教育セミナーのテーマ、アドバンスコースの開催予定、以上が報告された。

8) World Society for Pediatric and Congenital Heart Surgery Regional Meeting について

：山岸正明理事（資料 9...p43）

山岸正明理事から 2015.11.27-28 に Westin Miyako 京都で、日本小児循環器学会も後援する形で開催されることが報告された。

#### 4. 審議事項

1) 選挙管理委員会の選定と次回理事会スケジュールについて

：安河内理事長（資料 10...P44）

安河内理事長から来年の理事会選挙のスケジュールについて報告があった。

- ▶ タイムテーブルが提示され (p44) スケジュールが了承された。

選挙管理委員は、神山浩先生 (日大)、杉山央先生 (女子医大)、高月晋一先生 (東邦大)、藤原優子先生 (慈恵大)、福島裕之先生 (慶応大)、および外科系から角副理事長の推薦する外科系候補者の中から4人を選出することとなった。

また、評議員の更新評価 (日本循環器学会の会員か日本心臓病学会の会員になっているか) を今年中に確認することとなった。

## 2) 学会事務・学会雑誌委託業者選定について

：安河内理事長、白石委員長 (資料 11...P45、当日資料有)

まず坂本理事よりまず当学会の財務状況について説明があった。

現在の小児循環器学会の財務状況について坂本理事から説明があった。

現在の学会運営費として、学会本体の運営費が450万、専門医が220-230万、HP管理費が140万であり、年間約800万の運営費がかかっている。加えて、学会誌の発行に1,600-2,100万円がかかっている。対して、現在の会員からの会費収入は3千万弱であり、これに学会アクティビティ上昇の名目で3千円の会費値上げの結果、3,700万程度になっている。現在の繰越金は3,700万あるが、これを適正レベルといわれる5,000万程度に5年位ぐらいをめどに引き上げることも必要である。会費値上げの分の750万を本当に学会アクティビティ上昇のために使うことを考えると、現在と同等な学会運営のためには、雑誌発行費は (発送費、native check 込みで) 1,700万程度に抑えることが望ましいと考える。

学会誌出版選定に関わる議題のため、MT社職員の退席後に以下の討議がなされた。

協和企画との雑誌発行契約は、来年からの雑誌電子化が総会で決定されたため、現在の紙媒体での出版契約は現在の契約書に則って、7月に書類で通知し今年11月で契約終了することになった。このため来年1月からの雑誌発行のためには、2014年10月末から遅くとも11月はじめまでに学会誌発行業者を選定しないといけないことが安河内理事長より説明された。

白石編集委員会委員長から各社雑誌および事務委託の見積もりと契約内容・条件 (資料 11 p45) について報告があった。またリストの各会社の特徴と不得手な部分についてその結果

(当日資料)の提示があった。

以下の質疑があった。

- 自社ビルに会議スペースがあるか。(富田理事) 大きな会社は持っている。確認する。  
(白石理事)
- 学会事務と雑誌を一緒をお願いするのか、別々をお願いするのか。雑誌発行と学会事務委託と別々に改めて見積もりをしてもらう予定。 本日はそれぞれ4社ぐらいに絞り込みを行い、10月中に出席できる理事の前で最終プレゼンを行い、最終的に決定したい。(安河内理事長)
- 雑誌のサンプルが説明の時には欲しい。(富田理事)
- MT や協和企画の雑誌見積もりは適切か。(坂本理事) 適切である。これ以上安いのは問題と考える。(白石理事)
- 発送費、Native Check 込みで1,600万円を目安に考えてもらうのがよい。(坂本理事)
- 最低5年は値段を据え置くという要求をしたい。(佐地理事)
- 雑誌と運営とが一体が良いかもしれないが、雑誌の一番良いところ、運営が一番良いところと別々でもあまり困らない。(中西理事)
- 安いばかりではなく、reliable などところを選ぶことが重要。(白石理事)
- 運営費800万程度(専門医含む)、学会誌1400万程度の値段で、学会運営の信頼性が高く、英文1回と日本語6号の雑誌をやってくれるところが条件(安河内理事長)
- その他、各理事が提示された会社との各自の経験が述べられた。

➤ 以上の討議を踏まえて、以下の会社に10月中に最終プレゼンを行ってもらい、最終決定を行うこととなった。

運営+雑誌の会社として

杏林舎、株式会社アトラス、国際文献社、中西印刷(これらの会社には雑誌と運営(専門医含む)を一体化したプランと、別々にした時のプランもプレゼンしてもらう)

雑誌のみの会社として

MT社、エルゼビア(後で英文誌しか扱わないことが判明し対象から除外)、協和企画

運営のみの会社として

プロコムインターナショナル、日本小児医事出版

### 3) 学術集会時の事務分担について: 安河内理事長(資料12...P46-47)

今年の学術集会の際に、学会事務局と学術集会事務局の事務作業について混乱があった

め、事務作業の項目リストの作成が必要となった。今回学術集会時の事務分担を学会本体事務の分と学術集会事務の分をまとめて表にした。よく見ていただいて細かな点はまた連絡いただきたい。(安河内理事長)

教育セミナーのアドバンスコースのビデオ録画は主催の学術会長負担である。(鎌田理事)  
ランチョンは本当に学術集会事務局の所属のみでよいのか。(角理事) 学会も関与した用が良いという意見もあった。

「？」が付いている項目は学会側がするのか、学術集会側がするのか 10 月をめどに意見をまとめて結論を出すようにする。(安河内理事長)

#### 4) 倫理指針の改定について：土井副委員長（資料 13...P49）

土井副委員長から平成 17 年に策定された倫理指針を今回改訂した内容の説明があった。資料のアンダーラインの部位が新しく加えられた文言である。

以下の質疑があった。

個々の施設からの案件の倫理審査も受け付けるのか？(小川理事) 個々の研究などの倫理審査は倫理委員会をすべて通していただくのが原則となるが、基本的に審査は個々の施設の倫理委員会で行ってもらう。学会の倫理委員会で取り扱うものは、学会研究委員会や学会本体上で必要な倫理審査と倫理委員会のない施設からの審査が原則的に倫理委員会の審査対象とする。(土井副委員長)

各自読んでいただき来週末ぐらいまでに意見がある人は各自出してもらうことになった。

#### 5) 多領域専門職委員会規定について：安河内理事長（資料 14...P55）

安河内理事長から説明があった。これまで規定がなかったために多領域専門職委員会が何をやるのかをはっきりさせた。その他の学会内に設けてある各委員会も委員会規定を順次設けてもらい、今後の委員会活動の基準としていってほしい。来年の任期末までに各委員会で策定していただきたい(安河内理事長)。

#### 6) ホームページにおける理事会資料公開について：中西理事

- 理事会議事録の HP 公開については、特定個人に関わる情報や賞罰関係の審議事項、非公開の発言を除き、広報委員会と理事会のチェックを経て基本的に公開することが承認された。

## 5. その他

### 1) あけみちゃん基金：中西理事

海外医療費の助成金の基金である。あけみちゃん基金の海外医療助成利用についてできれば JPIC と小循の後援いただければと考えている。可能かどうか持ち回りで決定することとなった。

## 2) Mt. Fuji Network Forum : 坂本理事

来年の 2 月 27-28 日に開催される。昨年同様、小児循環器学会からの協賛をお願いしたい。

▶ 承認された。

議長は以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2014 年 9 月 27 日

議長 安河内 聡

議事録署名人 市田 薔子

議事録署名人 小川 俊一